

最終試験結果の要旨

学位申請者 氏名	樊 帆		
審査委員	主査	鹿児島大学（農）・教授	秋山 邦裕 印
	副査	鹿児島大学（農）・准教授	李 哉滋 印
	副査	琉球大学（農）・教授	内藤 重之 印
	副査	鹿児島大学（農）・教授	豊 智行 印
	副査	鹿児島大学（水）・教授	佐野 雅昭 印
審査協力者	印		
実施年月日	平成 29年 1月 6日		
試験方法（該当のものを○で囲むこと。）		<input checked="" type="checkbox"/> 口答・筆答	
<p>主査及び副査は、平成29年1月6日の公開審査会において学位申請者に対して、学位申請論文の内容について説明を求め、関連事項について試問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。</p> <p>以上の結果から、審査委員会は申請者が博士（農学）の学位を受けるに必要な十分の学力ならびに識見を有すると認めた。</p>			

学位申請者 氏 名	樊 帆
<p>【問1】 情報・データの信頼性に関して、何時、誰に、など調査内容を具体的に確認したい。</p> <p>〈回答1〉 A事例については、経営サンプルの調査を2回実施した（2012年）。「えと菜園」については、神奈川県代表責任者を訪問してインタビュー調査、NPO法人、直売所など関連施設の調査を行った。熊本県の農家3戸の訪問調査を実施した。消費者の調査はホーム・ページを利用してアンケートを2回実施した。</p> <p>【問2】 A事例の取り扱い農産物の品名と出荷農家の関連について、特にC品率が高い理由は何か？ 責任者のネット販売による所得はどれくらいか？</p> <p>〈回答2〉 C品率が高いのは、大量安価販売を行いつつ「野菜セット」も伸ばしているためである。ただし、メリットもあるが、送料負担が発生するデメリットがある。まだ、1戸当たりのネット販売収入は少ないため、市場出荷・農協系統出荷と組み合わせて実施している段階である。責任者のネット販売による手数料収入は、40万円強に過ぎないが、今後伸びていくと予想される。</p> <p>【問3】 「えと菜園」の就農支援資金は、現在、どれくらいになるのか？</p> <p>〈回答3〉 現在、450万円（1500件*3000円）以上だが、エシカル消費の増大に伴い、増加する見込みである。</p> <p>【問4】 「えと菜園」は農家連携といえるのか？法人経営ではないか？</p> <p>〈回答4〉 責任者も農家であり、熊本と神奈川で農業生産・出荷を行っているため、農家連携の新しい形態として扱った。</p> <p>【問5】 双方向コミュニケーションの手法と効果について、特に消費者へのフィードバックはどのように行っているのか？ どのような効果があるのか？</p> <p>〈回答5〉 発信はホーム・ページ、ブログ、Facebook、ツイッターなどで行い、消費者フィードバックはリプライ、投稿、メール、電話などを利用している。生産現場のリアルの情報を発信しているので、消費者の満足度は高い。消費者のニーズ把握にも役立っている。</p> <p>【問6】 高齢者のエシカル意識が高いという調査結果について、どのように理解・判断したら良いか？むしろ若い人の意識が高いのでは？</p> <p>〈回答6〉 年齢別の集計では回答件数が少ないため、傾向として結果を示した。今後の調査でサンプル数が増えれば、より明確な分析ができると考えている。</p> <p>【問7】 小口の物流コストは割高になるが、克服するためにはどのような方策があるのか？</p> <p>〈回答7〉 付加価値のある特別な商品を見出す必要がある。多少割高でも、新たな社会的価値を有する商品を求めている消費者は多い。エシカル消費では、ミッションなど消費者へのメッセージの発信が重要である。</p> <p>【問8】 ネット販売の機能と課題については、一般的流通・販売にも当てはまることではないか？</p> <p>〈回答8〉 ネット販売は端緒的な取り組みだが、今後市場外流通のルートとして拡充されると予想している。</p>	